

岡山から世界へ 広がる支援の輪



日本人が海外に飛び出し、外国人が流入する相互浸透制度、意識の両面での「内なる国際化」が叫ばれて久しいが、阪神大震災を経て「共生」が時代のキーワードとなった。外国人と共生する地域づくりを目指して奮闘するNGO（民間活動団体）やボランティアを追ってみた。

中国人女性の話に耳を傾ける桑山医師（中央）（昨年11月）

「冷静に行きましょう。道は開けますよ」。岡山市に本部を置くAMD A（アジア医師連絡協議会）のカンボジアプロジェクト委員長で、山形県の精神科医桑山紀彦さん（三三）は、日本人の夫から暴力を受けて離婚調停中の中国人女性に声をかける。同県内の母子寮の一室。女性は目に涙を浮かべ、「ありがとうございま

す」と何度も頭を下げて桑山さんを見送った。嫁不足に悩む山形の寒村に、行政の仲介で外国人花嫁▽がやって来たのは十一年前。彼女らの多くが嫁いた家庭の雰囲気になじめず、日本海側特有の垂れ込めた冬空の下で、心を患っていく。

外国人花嫁を救おう

JVC山形

日本が経済大 た九〇年暮れ。往診依頼がう息の長いものとなった。国化し、交通機 あった山間部の民家で、フ 桑山さんらは今、外国人 関の発達で世界 イリピン女性がぼう然自失 花嫁を通して見えて来た との時間距離が で座り込んでいた。 「家庭における妻の地位の 低下」「夫の自信喪失」と 翌九一年、この地区で日 本語教室を始めた。携帯電話 いう問題を、日本人女性の 話一本で、花嫁から相談を 問題として見ようとしてい 受け始めた。同年十二月、 る。三月に「アジア国際家 外国人花嫁を救うため、東 族会議を開く。岡山から遠 の出来事は当 京に本部を持つNGO「JVC」に 離れた東北で、NGOが 時、大きな議論 V C」（日本国際ボランテ 地域を活性化させている。 を巻き起こし、イアセンター）の姉妹団体 「東北は東京に労働者を

た。岡山の農村部でも、国 「JVC山形」を設立。保 送り、高度成長を支えてき 際結婚への取り組みを始め 健所が呼び掛けた健康相談 た日本の第三世界。アジア ているケースもあり、他人 に医師や通訳を派遣するな と同じなんですよとい、 ど、行政にも協力した。 「日本のいろんな地域とネ 外国からの花嫁は現在、 ツトワークが生まれれば素 医療支援に取り組んできた フィリピン、韓国、中国な 晴らしい」と桑山さん。N 桑山さんが国内、それも自 どの千人に増えた。桑山さ GOの使命とは「行政の枠 分の生活エリアで入足元の らの活動内容も緊急性を 組みがない部分に、新たな アジア▽に初めて出会った 要する医療だけでなく、社 枠組みを作ることと話し、 会生活全体を支援するとい 顔を引き締めた。